

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 77

学校名・団体名	京都教育大学附属桃山小学校
HPアドレス	http://www.kyokyo-u.ac.jp/MOMOSYO/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	情報活用能力育成を目指した教科等の学びの追究
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>新学習指導要領では、高度情報社会で生き抜くために必要とされるモラルやマナーをはじめとする資質・能力を各教科の学習や子どもたちの生活と関連させながら系統的に身につけていくことを求めている。知識基盤社会やグローバル社会と呼ばれる21世紀に生きる子どもたちにとって、情報技術を使いこなすだけでなく、知りえた情報について多面的・多角的な視点からとらえ、価値判断をしながら表出していく力は必須のものであると言える。情報社会を生きる子どもたちにとって、「資質・能力の育成」が情報やメディアの分野をも含めて総合的かつ系統的に培われなければならない。</p> <p>京都教育大学附属桃山小学校では、「教育の情報化」に伴う教育環境改革及び教育実践をさらに追究するとともに、平成22年度以降継続して研究を行ってきた「教科指導における情報機器活用のあり方」や「小学校における情報教育を核とする新教科（メディア・コミュニケーション科）の学び」を広く地域の学校に広めていく「教育の情報化推進拠点校」をめざし、①『情報教育に於ける中核教科の開発・発展』②『アクティブ・ラーニングを基盤とした教育の情報化に対応する各教科・領域の指導方法の提案』③『21世紀型情報活用能力を育成できる教員の養成』の3つを柱とするプロジェクトを計画し、研究を進める。</p>	

<活動・研究報告>

■具体的な活動内容およびその時期

- 4月・・・各教科における研究の重点の設定・校内研究理論研修
- 5月・・・実践に伴う環境整備・情報機器の整備（タブレット PC 追加購入、計 135 台を使用）
各教員による新教科の教材開発及び指導内容の検討（月 1 回研究部会、検討会議）
ICT を活用した主体的・対話的で深い学びを実現する各教科単元の作成・実践（～12 月）
教育実習において配属実習生の ICT 機器を活用した授業の実施
- 6月・・・ICT を活用した各教科等の授業実践、校内研究会（英語）、有識者からの指導助言および講演
教育実習において配属実習生の ICT 機器を活用した授業の実施
- 8月・・・新教科単元及び指導内容の確定
学会等における情報交換・研究成果報告（教育委員会対象セミナー）
指導用図書（教科書）作成開始
- 9月・・・教育実習において配属実習生の ICT 機器を活用した授業の実施
- 10月・・・ICT を活用した各教科等の授業実践、校内研究会（理科）、有識者からの指導助言および講演
学会等における情報交換・研究成果報告（日本教育メディア学会、日本教育大学協会）
- 11月・・・新教科及び ICT を活用した各教科等の授業実践、校内研究会（メディア・コミュニケーション科／算数）、
有識者からの指導助言
- 12月・・・本研究に係る実践論文が日本教育メディア学会の査読を通過。
- 1月・・・指導用図書（教科書）完成（低学年版・中学年版）
ICT を活用した各教科等の授業実践のまとめ作成
- 2月・・・先進校視察（福岡教育大学附属久留米小学校・広島大学附属小学校）
教育実践研究発表会にて研究成果の報告および参会者との情報交換、有識者による指導助言および講演
- 3月・・・研究のふりかえりと、2018 年度研究の方向性についての共通確認

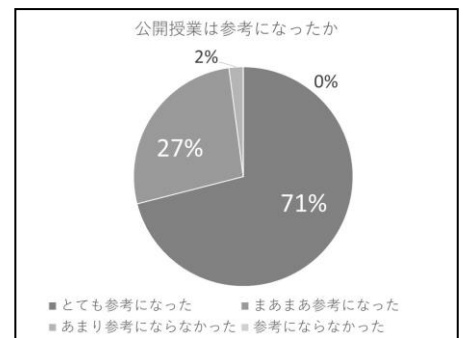
■取り組みの成果

○研究成果の発信

4 月当初に研究の共通理解を図る校内理論研修会を実施するとともに、2 月に教育実践発表会を実施した。当日は約 300 名の参会者があり、本校の独自教科であるメディア・コミュニケーション科や新学習指導要領に基づいた各教科等における ICT 活用の方法について、授業提案という形で参会者の共通理解を図ることができた。

なお、参会者に事後アンケートを実施し、参会者中 84 名より回答を得た。右図は当該発表会において参観した各授業（合計 3 授業）について参考になったかを 4 件法で問うた結果である。アンケートに回答した参会者は、ほぼすべての授業について肯定的な回答をしており、情報教育を核とする新教科や ICT を活用した新学習指導要領に沿った授業が今後の教育活動に大きく寄与したことが理解される。

また、平成 29 年 8 月に行われた「教育委員会対象セミナー」や 10 月実施の日本教育メディア学会、日本教育大学協会研究集会において、情報教育を核とする各教科及びメディア・コミュニケーション科の取組と各教科における「主体的・対話的で深い学び」を実現するための ICT 機器活用の取組について発表し、参会者から評価を得た。加えて、本研究に係り新学習指導要領と情報教育の関係性についてまとめた論文が日本教育メディア学会の学会誌に掲載された。



○メディア・コミュニケーション科及び各教科等の ICT 活用についての授業実践の実施と交流

学年会およびブロック会議の時間をとおして、メディア・コミュニケーション科及び各教科等の ICT 活用について各クラスの取組を交流することができた。その結果、メディア・コミュニケーション科における、特にメディア・リテラシーに着目した「学習内容の系統性」について議論を行い、その内容を児童用参考書（教科書）に反映させることができた。児童用参考書（教科書）については、昨年度の試案をベースに内容を充実させた改訂版を作成し、低学年版・中学年版を発行することができた。



○提案授業と有識者を招いた研修会の実施、視察受入れ等を通じた情報交流

年間 4 回の提案授業を実施し、授業後に研究協議会を実施した。研究協議会には、大学教授などの有識者を招聘し、指導助言及び講演をしていただいた。また、他府県からの視察を受け入れ、授業参観と共に事後に質疑応答の形で本校の研究内容について説明を行った。加えて、ICT 活用や情報教育を研究の柱とする学校への視察を行い、情報交流を行った。

○主体的・対話的で深い学びを実現する ICT 活用の授業実践の実施

メディア・コミュニケーション科の実践記録とともに、各教科等における ICT 機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践を各学年の様々な教科等で実施した。実施に当たっては、事前に指導案検討を行い、授業記録をとるようにして実施の状況を全教員で共通理解できるようにした。また、作成した指導案及び授業記録について、実施内容を広く発信することを目的に報告集（研究紀要）を作成し、教育実践研究発表会（2018 年 2 月実施）において参会者に配布した。